

登録特許・実用 (抄録 A)

第2603182号

【名称】有機塩素化合物分解菌の培養方法

審査/評価者請求	有	請求項/発明の数	1 (公報 4頁、抄録 2頁)	発行日	平成 9年(1997) 4月23日
出願/権利者	環境庁国立環境研究所長	茨城県つくば市小野川16-2)	(他 1名) ※	Int.C1.6	識別記号
発明/考案者	矢木 修身		(他 4名) ※	C12N 1/20	
登録日	平成 9年(1997) 1月29日			B01D 53/70	
出願番号	特願平5-59292	平成 5年(1993) 2月25日		C02F 3/00	ZAB
公開番号	特開平6-245760	平成 6年(1994) 9月 6日		//(C12N 1/20	
代理人	吉嶺 桂			C12R 1:01)	
				FI	
				C12N 1/20	
				C02F 3/00	ZAB
				B01D 53/34	134
				※最終頁に続く	

【産業上の利用分野】本発明は、有機塩素化合物分解能を有するメタン資化性細菌の有機塩素化合物分解能力を向上、安定化させる培養方法に関するものである。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 有機塩素化合物分解能を有するメタン資化性細菌を、銅濃度 $0.024 \sim 0.18 \mu\text{mol}/1$ の範囲の培養液で培養することを特徴とする有機塩素化合物分解菌の培養方法。

【実施例】以下、本発明を実施例により具体的に説明するが、本発明はこの実施例に限定されるものではない。

実施例 1

メチロシナス属細菌のトリクロロエチレン分解能力に及ぼす培養液銅イオン濃度の影響を、以下に示す方法で確認した。表 1 に試験に用いた培養液の銅濃度を示す。A 系が対照系列として、銅濃度は従来の濃度である $0.24 \mu\text{mol}/1$ とした。その他の系列の銅濃度は、 $0.006 \sim 0.18 \mu\text{mol}/1$ とした。

図面なし

【書誌的事項の続き】

【IPC6】 C12N 1/20;;B01D 53/70;C02F 3/00 ZAB;//(C12N 1/20;C12R 1:01)
【F1】 C12N 1/20;;C02F 3/00 ZAB;B01D 53/34 134

【識別番号または出願人コード】 591025163

【出願/権利者名】 環境庁国立環境研究所長

茨城県つくば市小野川16-2

【識別番号または出願人コード】 000140100

【出願/権利者名】 株式会社荏原総合研究所

神奈川県藤沢市本藤沢4丁目2番1号

【発明/考案者名】 矢木 修身

茨城県つくば市小野川16番2 国立環境研究所内

【発明/考案者名】 内山 裕夫

茨城県つくば市小野川16番2 国立環境研究所内

【発明/考案者名】 三島 浩二

神奈川県藤沢市本藤沢4丁目2番1号 株式会社 茛原総合研究所内

【発明/考案者名】 下村 達夫

神奈川県藤沢市本藤沢4丁目2番1号 株式会社 茂原総合研究所内

【発明/考案者名】 岡田 扶佐子

神奈川県藤沢市本藤沢4丁目2番1号 株式会社 茂原総合研究所内

【代理人】 吉嶺 桂

【公報発行日】 平成 9年(1997) 4月23日

【参考文献】

特開 平2-92274 (JP, A)

特開 昭51-41488 (JP, A)

特開 昭50-116680 (JP, A)

特開 昭50-5581 (JP, A)

APPL. ENVIRON. MICROBIOL., 58 (11) (1992. NOV.) P. 37
01-3708

注) 本抄録の書誌的事項は初期登録時のデータで作成されています。